

横浜市インフルエンザ流行情報 2号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザの報告が増加しています。

【概況】

2016年第47週(11月21~27日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **1.85** と、前週よりさらに増加しており、報告された患者の半数以上は15歳未満です。

今シーズンの第47週までの迅速診断キットの結果の累計は **A型 91.9%**、**B型 8.1%** となっています。全国のウイルス検出状況^{※2}では、ほとんどが **AH3型(A香港型)** で、横浜市内も同様の傾向です。また、学級閉鎖の発生は第47週までに今シーズン合計で13件報告されています(主に小中学校)。

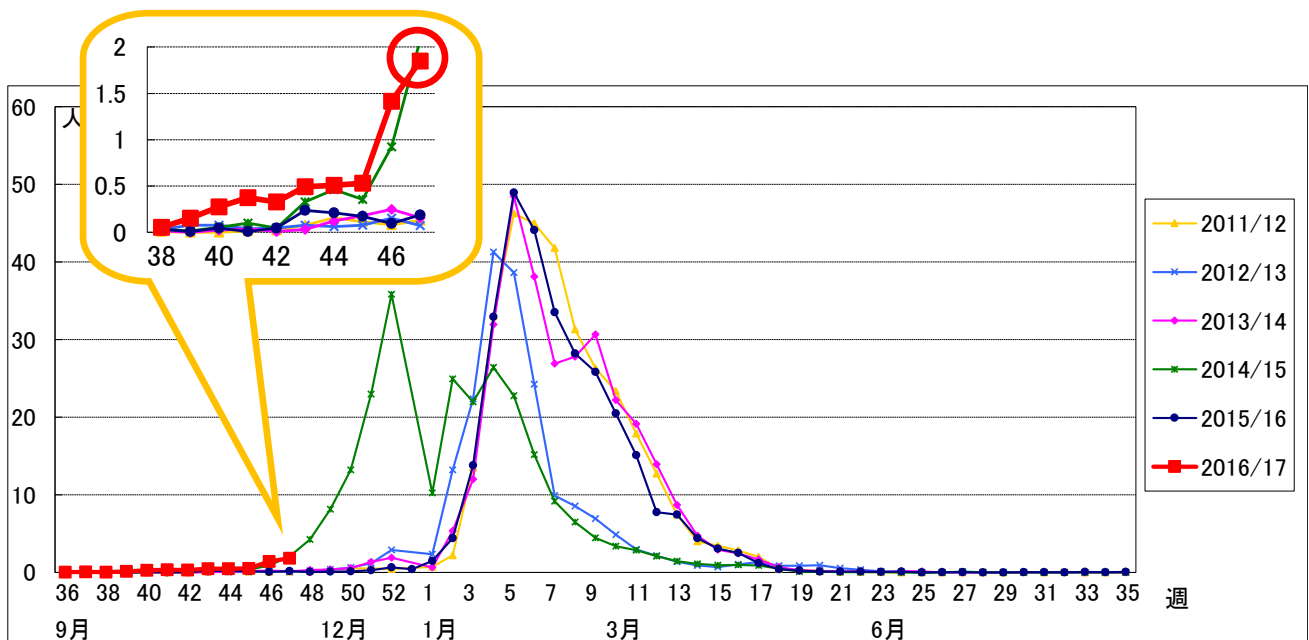
今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※3}が重要です。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

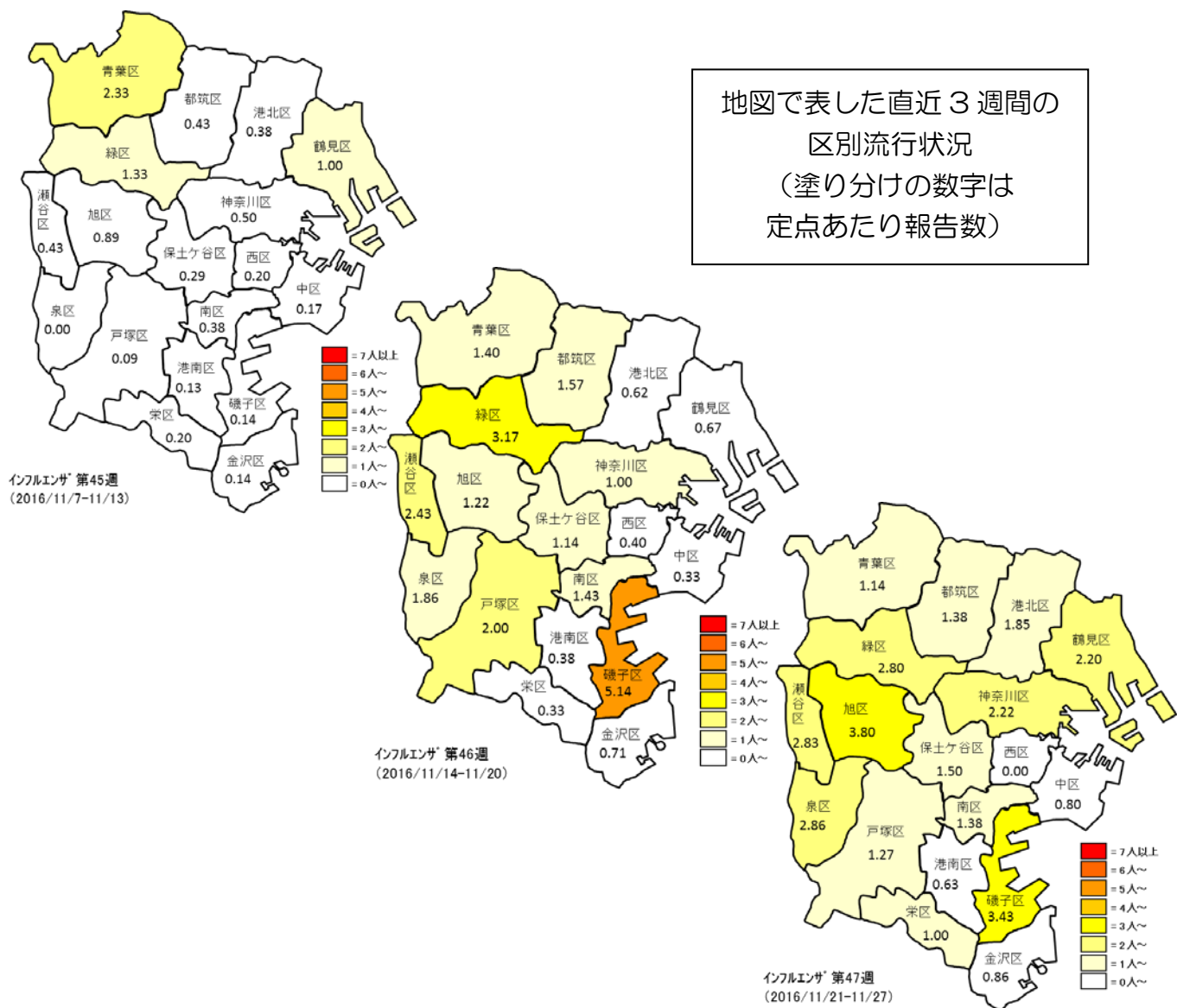
※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※3 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、2016年第47週1.85と、流行開始の目安となる1.00を上回った前週よりさらに増加しました。

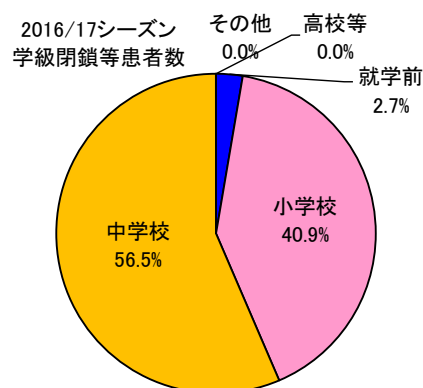
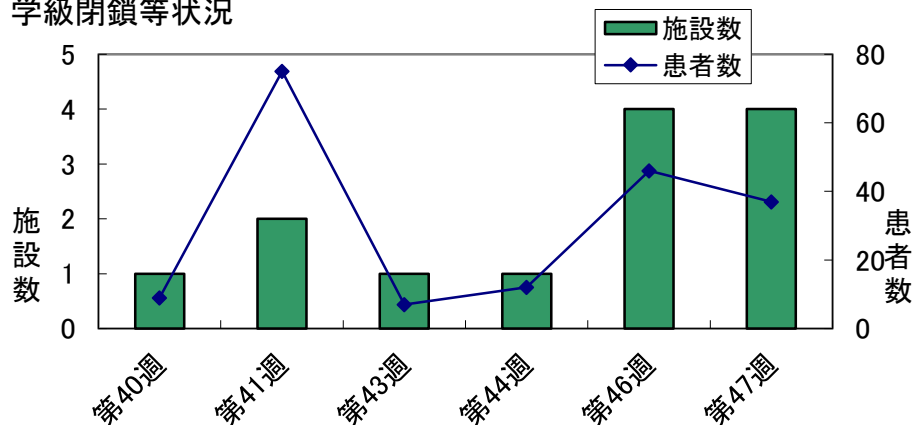


2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



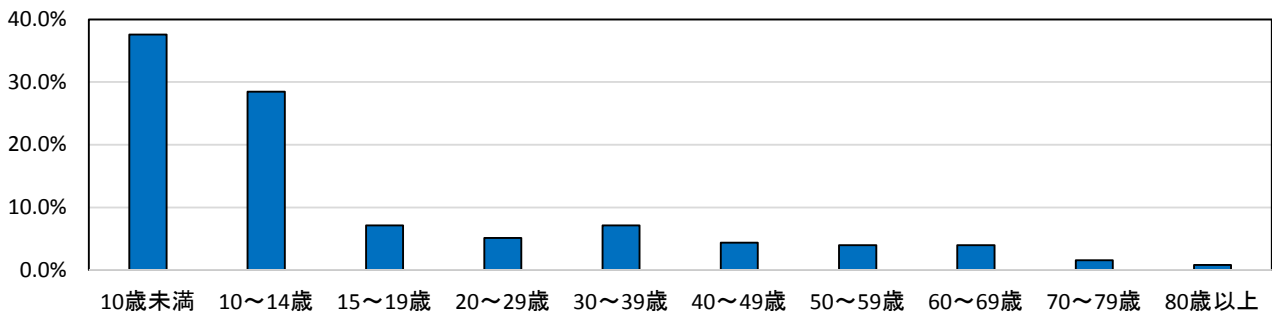
3 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第47週までに13件が報告され、報告された患者数は延べ186人となっています。報告された患者数の施設別の割合は、小学校40.9%、中学校56.5%、幼稚園・保育園が2.7%となっています。第47週の4件は、いずれも小学校でした。

学級閉鎖等状況

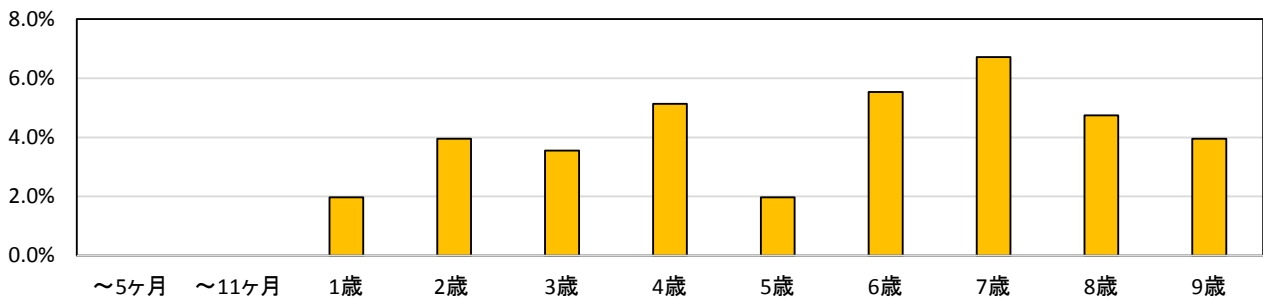


4 年齢層別集計:第 47 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 37.5%、10 歳以上 15 歳未満が 28.5%を占めています。10 歳未満では、7 歳(6.7%)が最も多く、次に 6 歳(5.5%)、4 歳(5.1%)となっています。

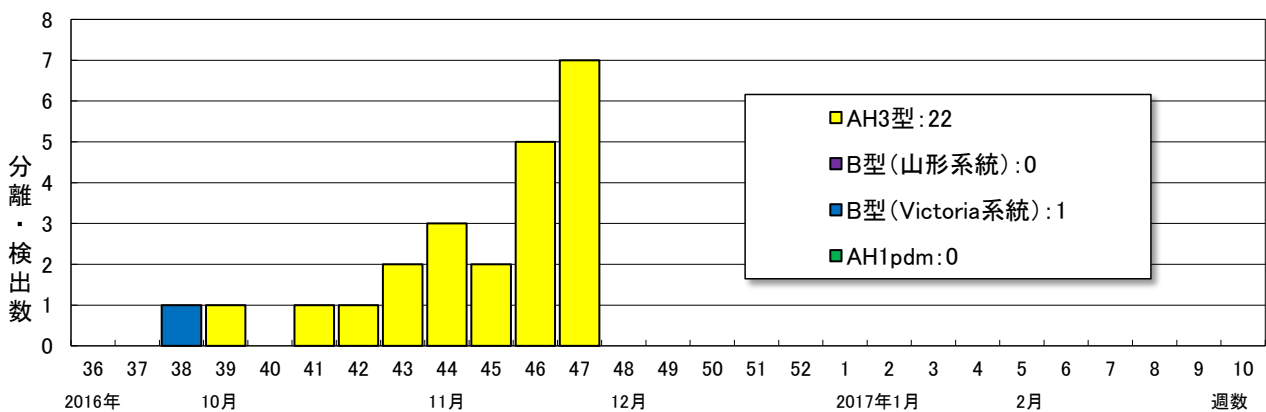
年齢層別集計(第 47 週)



年齢層別集計(第 47 週)《10 歳未満の再掲》



5 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から AH3 型が最も多く分離・検出されています。また、迅速診断キットの結果でも第 47 週で A 型 96.3%、B 型 3.7%と報告されています。



※参考リンク

近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237